

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500357		
法人名	有限会社 シルバーケア		
事業所名	グループホーム春日苑		
所在地	徳島県板野郡松茂町広島字四番越11番5		
自己評価作成日	平成27年10月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧吉野川沿いにある木造平屋建ての建物は、日中は施錠することなく開放的な雰囲気、自宅に居るかのような感覚で生活して頂けます。敷地内には畑や花壇があり、職員と共に季節の花や野菜を育てたり、収穫を楽しんでいただけます。また、苑内外での行事やイベントに参加していただいたり、建物内の掲示にも季節感を取り入れており、季節の移り変わりを感じていただけるよう心掛けています。車椅子を使用されている方にも外出の機会を持っていただき、地域との繋がりを大切にしています。一人ひとりとの関わりを大切にし、利用者主体のケアが行えるよう職員全員で意識を統一し、その方らしい生活のための支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の木造平屋建ての建物は、温もりや懐かしい雰囲気を利用者に提供している。この雰囲気のように、利用者はゆったりと穏やかな生活を送っている。季節の食材を使った手作りの食事や菜園、餅つき、干し柿作りなど、事業所は利用者が季節を感じられるよう日々のケアで工夫をしている。運営推進会議では地域の関係者の参加が多く、情報交換の場となっている。地域の行事にも積極的に参加し、ボランティアの来訪も定期的となっている。職員は内部研修に積極的に取り組み、自らのスキルアップに努めている。職員は利用者に尊厳をもって接しながら、和気あいあいとした生活を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型グループホームとしての意義を職員全体で確認し、事業所独自の理念を作成している。また、理念に基づいたケアを実践できるように常に話し合いを行っている。	職員間で地域密着型サービスの意義について話し合っている。地域との関わりを通じて開かれた事業所であるよう取り組んでいる。理念をケアの原点と位置づけ、利用者一人ひとりを尊重したケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域関わりのある方達の参加を得ている。長寿会にも加入し、地域内での行事にも出来るだけ多く参加し、交流を深めている。	事業所として自治会や老人会に加入している。地域の清掃活動や文化祭への参加、またボランティアの定期的な来訪や中学生の職場体験の受け入れなど、積極的に地域住民との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する相談窓口を設け、高齢者本人や家族からの相談を受け付けている。地域包括支援センター等とも協力し、認知症に関する講習を実施している。又、いつでも事業所内の施設見学が出来る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催している。民生委員、長寿会、地域包括支援センター職員、町担当者等の地域住民の参加を得て、苑での取り組みや利用者活動状況等、情報の交換をし、運営やサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には、多数の地域住民の出席を得ている。事業所の取り組みや介護現場の課題について意見交換を行っている。多数の家族に参加してもらえるよう声かけを行うなどの工夫をしている。会議時に出された意見は職員間で話し合い、事業所運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を密にとることを心がけている。特に不明な点は積極的に連絡を取り、早期に解決するようにしている。運営推進会議にも町担当者に出席をして頂いている。	日ごろから、職員から町担当者へ事業所の実情を伝えるようにしている。成年後見制度等の各種制度の利用について相談し、利用者一人ひとりのより良い暮らしの実現に向けて協力しあっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠を含めた身体拘束は行っていない。研修や意見交換を行う事で全職員が身体拘束について理解を深めている。身体拘束はしないという共通認識を全職員が持ちケアを行っている。	事業所内で身体拘束に関する研修会や話し合いを行うなどして、職員が拘束の内容とその弊害を正しく理解することができるようにしている。いかなるときも拘束は行わないという姿勢を全職員で共有し、利用者に寄り添って接することで抑圧感のない穏やかな暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行う事で、全職員が虐待について理解を深める機会を設けている。全職員に周知徹底させることによって不適切なケアを防止し、虐待の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑全体では現在2名の入居者の方が、成年後見人制度を利用している。日常生活自立支援事業や成年後見人制度について理解を深めるために、研修を行ったり、関係機関との協力体制の構築に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定時には利用者や家族に対し、丁寧で分かり易い説明をし、理解、納得頂けるようにしている。又、疑問、不明な点も全てお答えし、不安のないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり、意見箱を設置している。家族の面会時には利用者の日頃の様子等を伝えるとともに要望などを伺い、話しやすい雰囲気作りに努めている	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの意向を把握するよう努めている。家族の来訪時には来訪時には、話しやすい雰囲気づくりを心がけたり、家族会を開催したりして意見交換を行っている。なお、来訪の少ない方にも連絡を絶やさぬよう努めている。意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は、毎日の朝礼や月1回のミーティング時、個別面談等を行う事でコミュニケーションを図っている。職員の意見や提案は、代表者と相談のもと、運営に反映できるよう努めている。	日頃から代表者や管理者は、職員の意見や提案を聞くよう努めている。年1回、管理者との個人面談の機会を設けている。職員から出された意見や要望が代表者に伝わる仕組みを構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に現場に足を運んで職員とのコミュニケーションを図ることで職員個々の勤怠状況や実績を把握している。職員の様子に注意を払い、やりがいや向上心を持ってよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の技術取得に応じて外部研修制度が受講できるようになっている。機会があることに推奨し、希望者を募っている。苑内研修は月1回は必ず行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所での運営推進会議、研修、行事に参加し、交流を深めている。他事業所の取り組みで良いと思ったことは積極的に取り入れ、サービスの質の向上に役立てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや要望を傾聴することで現状を把握し、気持ちを受け止めることにより信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や悩み事に向き合い、信頼関係を築くように努めている。サービスに対する質問や不明なことがあれば丁寧に説明するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の現状や要望を把握し、今必要とする施設でできるサービスやその他地域サービスについて説明し、できる限り期待に添えるよう支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者として敬い、日常生活を送る中で、本人と職員が協力して進められる作業(調理、家事、手芸、菜園等)を行い利用者職員との信頼関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況報告を送っている。面会時にも本人の希望や様子を伝え現状を把握して頂くことや家族からの要望等を話し合う事で情報を共有し、共に支えて行く関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や趣味に沿った外出や行事などを企画している。地域のイベントにも積極的に参加することで、地域とのなじみが途切れない様努めている。	事業所では、利用者の友人の来訪や馴染みの商店での買い物、祭りなどの地域行事に出かけている。自分で作った手芸品を作品展に出展する方もいる。利用者一人ひとりが知人や地域と関わり続けながら生活することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誰もが自然と集まりたくなるような空間で職員も含め、利用者同士でなじみの関係を作れるように共同で楽しめる作業やレクを提供するなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療関係や他の施設等へ移る際には、本人・家族が安心して移転が行えるよう、適切な情報の提供に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、利用者の思いを聞くことで、希望や意向を把握している。聞くことが困難な方に対しては、日常での関わりで真意を察することができるよう職員間で検討し、出来るだけ応じるように努めている。家族からも情報を得る様にしている。	日頃から職員は、利用者との関わりを通じて、一人ひとりの会話や表情等から、思いや意向を把握するよう努めている。意思の把握が困難な方にも、生活歴やその場の状況から本人本位に検討し、その人らしい暮らしの実現に向けて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで歩んでこられた人生を本人、家族、介護支援専門員に聞き取りを行うことで、生活歴や習慣を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を送るなかで一人一人の能力や状態を記録し、把握に努め、その方らしい1日の過ごし方が出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族に思いや希望を伺い、定期的なアセスメントとモニタリングを通じて、利用者主体の介護計画を作成し支援を行っている。	本人と家族体された意見や要望を介護計画に反映している。職員は、繰り返しモニタリングを行って課題を共有し、本人がより良く暮らすための計画策定へと繋げている。関係者の意見も取り入れ、定期、及び随時の見直しを行い、状況に応じた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の心身の状態、行ったケア、言動等を記録している。申し送り時には気になる事や疑問点を話し合い、職員間で情報を共有、把握しやすい介護記録の作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望、ニーズに応じて協力医や他医院、他施設などと連携を図ることで一人一人に適した柔軟なサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の開催や地域の行事に参加する事で交流を深めたり、連携を図ることで安心・安全に生活して頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞き、可能な限りかかりつけ病院を受診できるよう支援をしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。内科や歯科医の往診を受け入れている。専門医の受診時にも職員が同行し、医療機関と情報を共有している。緊急時の対応も整備しており、適切な医療を受けることができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に異常や変化が見られた際にはすみやかに協力病院の医師、看護師へ連絡し、現在の状態を報告、適切な対応が出来る様指示を仰ぎ体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と密に連絡をとり、現在の状態や退院後のケア等について、本人・家族の了解のもと情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の指針を作成している。本人・家族のご希望をお聞きし、適切な対応が出来る様協力病院の医師・看護師と職員が連携しケアに努めている。	重度化や終末期のあり方について、利用者の状況に変化が見受けられた際に本人や家族と話し合っている。医療関係者とも連携し、本人や家族の意向にそうすることができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成している。研修・訓練を行う事で、職員全員に周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施している。運営推進会議等で災害時に地域の方々の協力が得られる様依頼している。	年2回、避難訓練を実施している。夜間想定や津波災害時などに生じる具体的な課題について検討している。訓練時には地域住民の協力も得ている。災害時に備え、備蓄品を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての人格を尊重した声掛けを行っている。プライバシーを確保できるよう訪室時・誘導時は配慮を行っている。	事業所では、利用者の誇りやプライバシーについて話し合っている。職員は言葉づかいなどにも留意し、利用者一人ひとりの人格を尊重したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをする前には本人に確認を行っている。選択が難しい方には複数の選択肢から選んでもらったり、意思表示が出来ない方には表情や態度から思いを汲みとるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の気分や体調を最優先に配慮している。事業所の都合に合わせての無理強いをさせず、本人のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を選び、毎朝モーニングケアを行っている。出張理容で、整髪し清潔を保ち、女性には行事等で化粧をして頂き、お洒落を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に適したお食事を提供し、又、職員も同じ食卓を囲み、美味しく楽しみながら召し上がって頂いている。野菜の皮むきや下膳などのお手伝いもして頂いている。	季節の食材を活用し、利用者と職員で手作りの食事を楽しんでいる。利用者は、野菜の皮むきや配膳などの役割を担っている。お餅を丸めたり、干し柿や干し芋作りをしたりするなど、季節感にも配慮しつつ食を楽しむ取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量・水分量を記録している。本人の嗜好や体調に合わせた食事内容や形態をとるようにしている。不足していれば、好物の代替食を用意したり、栄養機能食品等にて補い体調管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、夕食後は義歯を外し消毒している。希望される方には、協力病院往診にて口腔内・義歯のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時、排泄確認・誘導を行いチェック表に記録することで、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に努めている。オムツ・パットを使用する時は、本人の排泄量・体型に適したものを使用している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、身体状況にも配慮しながら、さりげない声かけや誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で排便の有無を確認している。安易に下剤に頼ることなく、食事の工夫や水分摂取等に対応している。やむを得ず下剤を使用する時には個々に応じた適量を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝にバイタルを確認し、個々に適した介助にて入浴して頂いている。拒否がある方は対応職員を変える、時間をおく等し入浴して頂ける様努めている。	利用者の希望に応じた入浴を支援している。身体状態にあわせて特殊浴槽を利用してもらうなど、ゆったりと入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。入浴を拒む方にはタイミングを変えて声掛けを行うなど、一人ひとりの気持ちを大切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠にならない様出来る範囲での家事活動や個別レクを行って頂いている。不眠が確認された際には協力医に相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報はファイルにて保管し閲覧出来る様にしている。ご自身で服薬困難な方には介助を行い、症状に変化がみられた際には協力医に連絡し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた個別レクを行い単調な1日にならない様努めている。様子を写真に撮り、壁に掲載したりアルバムに保存している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は周辺に散歩やドライブへ出掛けている。家族にも利用者の外出に協力して頂いている。行事やイベントへの参加を促し気分転換をはかって頂いている。	利用者は、気候の良い日には近辺を散歩し、外の景色を楽しんでいる。利用者の希望を聞きながら自宅を見に行ったり、阿波踊り見物やお花見等の外出の機会をつくっている。また、家族の協力も得たうえで墓参りにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は家族との相談の上、可能な範囲で管理を支援している。ご自身で管理が困難な方は苑で管理している。出費があった際には出納帳を家族に確認頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望し使用できる方は所持して頂く方針である。その他の方は苑の電話にて職員が支援している。毎月苑での生活を手紙に書き送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造建築であり太陽の光が入り込む構造となっている為、温かみを感じる空間となっている。共用空間には季節を感じられるように花や作品を飾り居心地を良く過ごして頂ける様努めている。	木造の温もりのある共用空間には、わかりやすく表示を付けるなどの工夫を行っており、利用者が安心して生活することができるよう配慮している。台所からは、調理の音や匂いを感じることができる。共用空間は生活感や季節感があり、利用者が集う場となっている。テラスからは、菜園を眺めたり、花見を楽しんだりすることのできる環境がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはテレビを配置しており、DVDで歌番組等を視聴頂いている。談話室にはソファを置きくつろげる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用されていた家具を配置したり、写真を飾ったりすることで、個性ある居室となっている。我が家で生活して頂いている様な居心地の良い空間になるよう努めている。	事業所では、居室に利用者の使い慣れた家具を持ち込んでもらっている。写真や好みのもを飾っている利用者もあり、居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室個室でバリアフリー構造となっている為、車椅子での移動が可能となっている。各個室は8畳あり家具の配置など本人の希望に添える広さを確保している。廊下には手すりを設置し安全対策を図っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その人らしく暮らし続けるために必要なことは何かを話し合い、理念として職員全員で共有して実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域内で行われるイベントや行事には積極的に参加している。また、長寿会に加入し、地域の方と交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で、認知症に関する相談窓口となれるよう行事等を通して呼びかけている。また、認知症サポーター養成講座の会場として事業所を利用していただき、民生委員など地域の方々との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、町職員・民生委員・長寿会の方などに参加して頂いている。地域の情報をいただいたり、苑での取り組みの報告を行って意見をいただき、サービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、現状の報告や意見交換を行っている。また、普段から運営に関する相談を行うなど、担当者と連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の全体ミーティング及び担当者のミーティングで、身体拘束に関する話し合いや研修を行い、職員全体で意識の統一を図るとともに、拘束の無いケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修やミーティング等で職員全体の意識統一を図り、虐待防止について常に意識しながらケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	つき	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修を行い、職員間で学ぶ機会を設けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、理解を頂けるように努めている。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制などについて、詳しく説明を行い同意を得るようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内にはご意見箱を設置し、誰でも要望を出せるようになっている。また、面会時には家族と積極的に関わり、意見交換をしやすい関係作りに努めている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、常に職員とコミュニケーションをとり、職員から意見や提案があった場合は迅速に対応出来るよう努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に足を運んで職員とコミュニケーションをとっており、相談や提案をし易い雰囲気である。代表者は職員の様子に気を配り、その思いを理解すると共に、向上心を持てるよう働きかけている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ、外部研修の受講が出来るようになっている。研修報告は全体ミーティングや苑内研修などで行って情報を共有し、研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の研修の受け入れを行っている。また、他施設の運営推進会議や見学実習に参加し、同業者と交流することで一緒に学び質の高いサービスの提供に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	つき	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の際、本人・家族と向き合いながら思いや不安を共感し、傾聴することで、安心して頂けるよう良い関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と向き合って話し合える雰囲気作りに努めている。家族が抱えている不安や要望を十分に話し合うことで、良い関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを十分に理解した上で、安心・納得していただけるよう、改善に向けた支援の提案、また必要ならば他のサービスの提案などの対応を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を介護される側の立場と捉えることなく、共に生活する者として常に寄り添い互いに助け合い、支え合う関係を築けるよう努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族あてに近況報告の手紙を送っている。また、来苑時には利用者の様子を報告したり、家族の思いを直接聞くことで信頼関係を築いていけるよう努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りや催し、長寿会主催の運動会に参加して交流を深めたり、なじみの友人に訪問してもらう事など、継続していけるよう心掛けている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの意思を尊重しながら、利用者同士の交流の場を作る工夫をしたり、食事やレクリエーションの時間は職員も交えながら出来るだけ多くの会話ができるように心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設に移る場合、本人や家族が安心して生活していただけるよう、これまでの生活習慣を詳しく情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人ひとりと丁寧に接しながら思いや希望をくみ取ることで、出来る限りその方の意向に沿えるよう努めている。困難な場合は家族から情報を頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との関わりの中でこれまでの暮らし方や習慣を把握し、家族からも情報をいただくことでその人らしく生活を送って頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースを把握し、その方の持っている力を活かしていただくことで、生きがいや役割を感じて頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回、センター方式を利用し、その方の思いや希望を知りアセスメントとモニタリングを繰り返すことで、利用者主体の介護計画の作成に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに、日々の状態や変化などありのままの様子を記入し、全職員で情報共有を行っている。日誌の確認は毎日、業務開始前に必ず行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が安心して暮らせるように、その都度必要に応じたきめ細やかな対応が出来るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	つき	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		行事や運営推進会議を通して、民生委員や地域包括支援センターなど地域との関係作りを行い、緊急時の対応に関する相談や、援助をしていただけるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		入所時にかかりつけ医の有無を確認し、希望がない場合は事業所の協力医をかかりつけ医としている。また本人や家族から希望があった場合は、いつでも他の医療機関を受診することができるようになっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		事業所の協力病院の看護師に、利用者の状態の変化を密に報告し、相談を行うことで、早期に適切な受診や適切な治療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		病院の医師と密に連絡を取り、入院によるダメージを最小限に抑えられるよう、早期退院に向けて支援をおこなっている。病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		事業所のできることを本人・家族・医師を交えて十分に話し合い、支援確認書を作成して対応方針の共有を図っている。出来る事・リスク等について理解し、職員・家族・医師の連携体制でケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		事故発生時や夜間の急変時にスムーズな対応が行えるようにマニュアルを作成し、周知徹底に努めている。関係者の協力を得てAEDや蘇生術の実施研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		災害時に備えて様々な状況を想定し、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議などを利用し、地域の方々にも協力を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	つき	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大切にし、誇りやプライド・プライバシーに配慮することを心がけ、本人の気持ちに寄り添った言葉かけや対応を行っている。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人ひとりの力に合わせた声掛けや対応を心がけ、意思表示が困難な人に対しては表情やしぐさなどから読み取れるよう努めている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合や決め事に合わせるのではなく、気分や体調に配慮しながら一人ひとりの希望に沿って支援している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にし、好みに合わせて出張美容を利用したり、美容室を利用していただけるようにしている。行事などの際には化粧をし、楽しんで頂けるように工夫をしている。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に応じて、一緒に食事の準備や配膳・後片付けを行っている。楽しく会話をしながら、食事を美味しく召し上がって頂けるように努めている。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を記録し、1日の摂取量を把握している。また、体調不良時など食事が摂れない場合は、好みに合わせて代用食や栄養補助ドリンクなどを用意している。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて、毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。また、本人・家族が希望される場合には、歯科医の往診による治療・口腔ケアを受けられるようになっている。					

自己	外部	項目	自己評価	つき	自己評価	実践状況
			実践状況	実践状況	実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ひとりひとりの排泄パターンを把握することでトイレ誘導をスムーズに行えるようにしている。またおむつ使用者には不快感や皮膚疾患の原因とならないように留意している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無・形状・量の排泄パターンを記録し、食事メニューや水分摂取量に気を配り、便秘予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望により、気持ち良く入浴していただけるよう支援している。異性の職員が介助を行う場など、利用者の心情や羞恥心にも配慮を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や明るさに配慮し、利用者一人ひとりが快適に且つ安心して眠れるよう心がけている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報はファイルに保管し、全職員が分かるようにしている。服薬確認は毎回行っている。症状の変化が見られる場合は、医師に報告し、適切な対応を行えるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみ事を提供できるように努めている。出来る限り多くの選択肢をもつことで、利用者主体の、その人らしい暮らしに繋げて行けるよう支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外食や買い物など、個別の外出支援を行っている。また、地域のお祭りや運動会などのイベントにも参加し、地域交流を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	つき	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方や、金銭を手元に置くことで安心される方については否定せず、家族と相談の上可能な範囲でご本人が管理できるよう支援を行っている。預り金については、出納帳を月1回家族に確認して頂いている。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかけられるようにしている。電話機の使用が困難な場合は職員が支援を行っている。同様に、手紙のやり取りもできるように支援を行っている。					
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりを活かした空間作りに努め、季節ごとの装飾や手作りの装飾などを取り入れ、少しでも居心地良く快適な生活が送れるよう工夫している。					
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや談話室などの空間をくつろげるように工夫し、気の合った利用者同士でゆったり過ごせるように支援している。					
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりに馴染みのあるものを使用していただき、居心地の良い空間を作れるよう支援している。また、家具の配置にも気を配り、安全面にも配慮している。					
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、木材を使用し、スロープや手すりを設置している。居室は8畳の個室でプライバシーは守られている。家具などは個人の状態に合ったものを選び、安全であることを最優先にしている。					